LIFONIC™

OFFICIAL MUSIC GENRE DEFINITION | 音楽ジャンル正式定義書

Version 1.1

創案者：SAKA SHIGEHARU（坂茂治）

創案日：2026年10月9日

初版制定日：2026年10月26日

改訂日：2026年10月31日

発信：HIRYU ENTERTAINMENT

商標：LIFONIC™（2026年11月出願予定）

序章｜音楽に境界はない

生命は、ひとつの完成された姿にとどまることなく、異なる存在との関わりの中で変化を続けてきた。
独立しているように見えるものも、互いに影響を与え、時に調和し、時に衝突しながら、新しい可能性を生み出している。
音楽もまた、生命と同じように進化し続ける存在である。
音楽には、長い歴史の中で育まれてきた多様なジャンル、楽器、音階、リズム、演奏技法、音楽理論がある。それぞれに固有の文化と芸術性があり、人々の感性を豊かにしてきた。
しかし、それらを分類する境界が、創作の可能性を制限するものであってはならない。
旋律は文化を越え、リズムは時代を越え、音はあらゆる存在と響き合うことができる。
既にある音楽の価値を尊重しながら、まだ存在しない響きを求めること。
静寂の中に躍動を見いだし、混沌の中に調和を見いだし、予測できない変化の先に心を揺さぶる美しさを生み出すこと。
音楽が完成に向かうのではなく、音楽そのものが進化を続けること。
その思想から、LIFONIC™は生まれた。
生命に境界がないように、音楽にも境界はない。

第1条｜名称と創案

本音楽ジャンルの名称を「LIFONIC™（ライフォニック）」とする。
LIFONIC™は、SAKA SHIGEHARU（坂茂治）が2026年10月9日に創案した音楽ジャンルである。
名称は、次の二つの言葉を融合した独自の造語である。
LIFE（生命） × SONIC（音） = LIFONIC
LIFEは、生命、存在、変化、進化を象徴する。
SONICは、音、響き、振動、音響的な広がりを象徴する。
LIFONICという名称には、生命と音が不可分に関わり合いながら、既存の境界を越えて進化し続けるという思想が込められている。
その根底にある理念を、次の言葉で表す。
「命の進化は音楽を進化させる」

第2条｜創案の理由

LIFONIC™は、既存の音楽ジャンルを否定するために生まれたものではない。
音楽の歴史は、異なる文化、技術、思想、感性が出会い、影響し合うことによって発展してきた。
その過程で生まれた数多くのジャンルは、音楽の多様性を豊かにし、創作者と聴き手を結びつけてきた。
一方で、特定のジャンルに属することが、楽器編成、音色、リズム、構成、演奏方法、表現形式などを一定の枠組みへと導く場合もある。
創案者SAKA SHIGEHARUは、音楽を既存の様式に当てはめるのではなく、作品が求める表現に応じて、あらゆる音楽的要素を自由に選択し、変容させ、融合できる創作のあり方を追求した。
また、音楽には芸術性と大衆性の双方が必要であると考えた。
複雑で斬新な音楽が、必ずしも心に響くとは限らない。
反対に、親しみやすさを追求するあまり、表現の可能性を狭める必要もない。
予測不能な構成と、心に残る美しい旋律。
異質な音の衝突と、自然に生まれる調和。
緻密な音響設計と、直感的に伝わる感動。

これらは対立するものではなく、一つの音楽作品の中で共存できる。
LIFONIC™は、その可能性を追求するために創案された。
目的は、既存の音楽を分類し直すことではない。
音楽を分類による制約から解き放ち、芸術性と大衆性を共存させながら、新たな感動と音楽的価値を創造することである。

第3条｜音楽ジャンルの定義

LIFONIC™とは、地球上のあらゆる楽器、音色、リズム、音楽理論、音楽ジャンル、さらには自然界の音や振動現象から得られる着想を自由に融合し、「予測不能な展開」「静と動」「陰と陽」の大胆かつ複雑な構成に、美しい旋律と心に響くハーモニーを共存させ、芸術性と大衆性の両立を追求する進化型音楽ジャンルである。
その本質は、単に異なる音楽ジャンルや音色を組み合わせることではない。
異なる性質を持つ音楽的要素が、相互に影響し、変化し、新たな表現へと発展する創造的な過程にある。
LIFONIC™は、特定の楽器、拍子、テンポ、調性、演奏技法、制作技術に限定されない。
また、特定の音楽構造を反復することや、複雑さそのものを目的とすることもない。
音楽的な自由を基盤としながら、一つひとつの音に意味を持たせ、意外性と必然性、緊張と解放、個性と調和を追求する。
予測できないからこそ驚きが生まれ、美しいからこそ記憶に残る。
その両立をLIFONIC™の重要な音楽的価値とする。
LIFONIC™の全体像は、音楽的定義、創作理念、社会的理念の三つの層から構成する。

CORE｜音楽的定義
芸術性 × 大衆性
予測不能な展開、静と動、陰と陽、美しい旋律とハーモニーの共存を通じて、楽曲そのものの音楽的価値を追求する。

EVOLUTION｜創作理念
人間 × 技術 × AI
既存の制作方法にとらわれず、人間の創造的な意思と多様な技術を結びつけ、音楽表現の可能性を拡張する。

MISSION｜社会的理念

音楽 × 生命 × 未来

音楽活動を通じて、地球環境、健康、生命および社会課題への関心と共感を広げる。

音楽的定義をジャンルの基盤とし、創作理念と社会的理念は、その表現と活動の可能性を広げるものとして位置づける。

第4条｜基本理念

LIFONIC™は、以下の五つを基本理念とする。

1. 境界からの解放

国境、文化、時代、音楽ジャンル、楽器、音楽理論、制作技術などによって創作の可能性を制限しない。

既存の音楽的価値を尊重しながら、その枠組みを越えて新しい表現を追求する。

2. 予測不能な展開

聴き手の予想を超える転調、転拍子、リズムの変化、音色の転換、楽器の交替、音響空間の変容などを、作品の表現目的に応じて取り入れる。

ただし、意外性を生むことだけを目的とした変化は求めない。

予測不能な展開の中にも、音楽的な意味と必然性を持たせる。

3. 静と動・陰と陽の共存

静寂と躍動、緊張と解放、明と暗、単純と複雑、秩序と混沌など、対照的な性質を持つ音楽的要素を共存させる。

一方を排除するのではなく、相互の関係によって表現を深める。

4. 美しい旋律とハーモニー

斬新な構成や複雑な音響表現の中にも、聴き手の心に残る旋律と、感情を動かす和声的な美しさを追求する。

音楽の芸術性を深めながら、聴き手との感性的なつながりを大切にする。

5. 終わりのない進化

一度確立した音楽的手法を完成形とは考えない。

作品ごとに異なる可能性を探求し、新しい技術、文化、思想、音響表現を受け入れながら進化し続ける。

第5条｜音楽構造と表現方法

LIFONIC™では、次の要素を重要な表現手段として位置づける。

旋律と和声

記憶に残る旋律、豊かな和声、独創的な音の重なりを追求する。必要に応じて、協和と不協和、調性と無調性などの対比も取り入れる。

リズムと時間

異なる拍子やリズムの融合、テンポの変化、休符や無音の活用などによって、時間の流れに新たな感覚を与える。

音色と響き

アコースティック楽器、電子楽器、民族楽器、合成音、環境音などの多様な音源を、固定された役割に限定せずに使用する。

構成と展開

従来の楽曲形式を尊重しながらも、その形式に拘束されることなく、突然の転換、段階的な変容、反復、断絶、再構築などを自由に組み合わせる。

音響空間とダイナミクス

音量の強弱、音の距離、広がり、密度、残響、静寂などを、旋律やリズムと同様に重要な音楽表現として扱う。

感情と物語

作品に内在する感情の変化や物語性を、歌詞だけでなく、演奏、構成、音色、音響表現によって伝える。

これらの要素は、すべてを一作品に含めることを義務づけるものではない。
作品の芸術的な目的に応じて選択し、融合し、変容させる。

第6条｜芸術性と大衆性

LIFONIC™は、芸術性と大衆性を対立する価値として捉えない。
独創的な音楽構造は、聴き手の知的好奇心を刺激する。
美しい旋律やハーモニーは、知識や経験の違いを越えて感情に働きかける。
予測不能な展開は新たな発見を生み、親しみやすい音楽的要素は、その発見への入口となる。
LIFONIC™は、複雑でありながら自然に心へ届き、親しみやすくありながら繰り返し聴くことで新たな発見が生まれる音楽を目指す。
一度の驚きで終わる音楽ではなく、聴くたびに異なる表情を見せ、時間とともに価値を深める音楽。
それを芸術性と大衆性の共存する姿と考える。

第7条｜作品の分類

LIFONIC™は、創案者が制作・発表するすべての音楽作品に自動的に適用されるものではない。
作品の制作理念、構成、音響表現、旋律、和声、展開、創造性などを総合的に判断し、LIFONIC™の基本理念を体現する作品を、そのジャンルに属する作品として位置づける。
分類に際しては、特定の楽器や音楽技法の使用数、ジャンルの混合数、テンポ、音量、楽曲の長さなどによる一律の数値基準を設けない。
また、独創的な表現を含む作品であっても、そのすべてをLIFONIC™とするものではない。
重要なのは、音楽的な自由、対照性の共存、予測を超える創造性、旋律と和声の美しさ、そして芸術性と大衆性の調和を、作品全体の思想として追求しているかどうかである。
代表作品およびその分類は、公式媒体において明示する。

第8条｜音響設計と鑑賞

LIFONIC™では、「静と動」が生み出す音量の強弱や音の広がりを重要な表現として位置づける。
楽曲によっては、豊かなダイナミックレンジを保ち、過度な音圧処理による音の歪みや表現の損失を抑えるため、一般的な音楽作品よりも全体の音量を控えめに設定する場合がある。
この音量設計は、単に大きな音を追求するのではなく、静寂から最大音量に至るまでの表現の幅を大切にするためのものである。
また、音響設計はすべてのLIFONIC™作品に共通する固定的な条件ではなく、個々の作品が求める芸術的表現に応じて決定する。

第9条｜音楽的独自性

LIFONIC™のジャンル適合性は、人工知能（AI）の使用の有無、使用割合、制作手段によって決定されるものではない。
多様な音楽要素の融合、楽曲構成、音色、転調、拍子やリズムの変化、静と動、陰と陽、ダイナミクス、旋律およびハーモニーの芸術性など、楽曲そのものの音楽的特徴に基づいて評価する。
これらの特徴は、使用した技法の数や複雑さだけで評価するものではない。第3条から第8条に定める音楽的な定義、基本理念、表現方法および分類の考え方に照らし、作品全体として芸術性と大衆性の調和を追求しているかを総合的に判断する。
AIの使用状況は、必要に応じて制作情報として記録・管理し、ジャンル適合性の判定とは区別する。AIの使用率を分類基準として設けない。
人間による創作のみで制作された作品も、AIなどの技術を活用して制作された作品も、同じ音楽的な基準で評価する。
創作技術の活用方針と社会的使命は、LIFONIC™の創作と活動を方向づける理念であり、特定の技術を使用することや、社会課題を作品の題材とすることを、個々の楽曲のジャンル成立条件とはしない。

第10条｜音楽技術と創作

LIFONIC™は、音楽表現のための技術を特定の時代や方法に限定しない。
生演奏、電子音響、音楽制作ソフトウェア、デジタル処理、アルゴリズム、人工知能などは、いずれも創作の可能性を広げる手段となり得る。
ただし、技術そのものが音楽の芸術的価値を決定するわけではない。
重要なのは、何を表現するために技術を選び、どのように音楽へと結びつけるかという創作上の意思である。
技術が進化しても、音楽の中心には創造する意思と、響きを受け取る感性が存在する。
LIFONIC™は、技術の進歩を積極的に受け入れながらも、技術の使用自体をジャンルの成立条件とはしない。

第11条｜創作手段の自由

LIFONIC™は、人間による作詞、作曲、編曲、演奏、歌唱、録音および編集に加え、電子楽器、デジタル技術、人工知能（AI）など、時代とともに進化する多様な創作技術を活用することを認める。
特定の楽器、演奏方法、制作環境、創作技術への依存や制限を設けず、表現の可能性を継続的に拡張する。
創作者は、作品が求める表現に応じて創作手段を選択し、必要に応じて組み合わせる。いずれかの技術の使用を義務づけるものではない。

第12条｜人間とAIの共創

LIFONIC™は、AIを単なる作業の自動化手段としてだけでなく、新しい音楽表現を探求し、人間の創造性を拡張する有力な創作技術の一つとして位置づける。
人間の創造的な意思、判断および感性と、AIによる生成技術を融合することで、従来の音楽制作では実現が困難であった構成、音色、表現の可能性を追求する。
AIの活用においても、何を表現し、何を選び、どのように作品としてまとめるかという創作上の意思を大切にする。
AIの使用自体を目的とせず、作品の芸術性、独創性および聴き手に伝わる感動を重視する。

第13条｜技術革新への対応

LIFONIC™は、新たな音楽技術が誕生した場合も、その技術の使用を理由に作品をジャンルの対象から除外しない。
創作技術の発展に応じて制作方法を進化させる一方、芸術性と大衆性の両立、対照的な要素の共存、美しい旋律とハーモニーなど、ジャンルとしての基本理念および音楽的特徴を維持する。
技術の新しさだけを作品の価値やジャンル適合性の根拠とせず、その技術が音楽表現にどのように結びついているかを重視する。

第14条｜創作の透明性と権利の尊重

AIを含む創作技術の利用に際しては、関係法令、第三者の権利、使用する技術の利用条件および公開先の規定を尊重する。
創作技術の利用に関する制作情報は、適用される法令、利用条件および公開先の規定に応じて記録・管理し、必要な情報を開示する。
制作情報の開示は、創作の経緯を適切に伝えるために行うものであり、AIの使用率によってジャンルを区分するためのものではない。
創作活動の自由と社会的信頼の両立を目指す。

第15条｜普及と発展

LIFONIC™は、音楽表現の自由と多様性を尊重する。
その理念は、特定の文化、国籍、言語、楽器、演奏技法、音楽理論に限定されない。
また、既存の音楽文化から受け継いだ価値を尊重し、異なる芸術表現との交流によって新たな可能性を見いだす。
創案者は、LIFONIC™の名称と基本理念を明確に示し、代表作品の制作・公開、音楽活動、情報発信などを通じて、その認知と発展を目指す。
LIFONIC™は、一つの様式を完成させるための音楽ではない。
新しい表現が生まれるたびに、その可能性を拡張していく音楽である。

第16条｜社会的使命

LIFONIC™は、音楽の芸術性と大衆性を発展させ、その普及を通じて地球環境、健康、生命および社会課題への関心と共感を広げることを目指す。
音楽を娯楽や商業的価値にとどまらない文化的表現として捉え、技術革新と人間の創造性を融合し、未来の音楽文化の発展に貢献する。
作品の発表、音楽活動、情報発信などを通じて、多様な人々が生命と社会の未来について考えるきっかけを広げていく。
この使命は、個々の作品に特定の主題やメッセージを義務づけるものではない。音楽表現の自由と多様性を尊重しながら、活動全体を通じてその実現を目指す。

第17条｜名称・商標および知的財産

LIFONIC™は、SAKA SHIGEHARUが創案し、音楽作品および関連する活動の識別に使用する名称である。
本名称については、関連する商品・サービスにおけるブランドとしての使用と保護を目的として、商標登録を予定している。
本定義書は、LIFONIC™の創案者、名称の由来、創案の経緯、基本理念、音楽的特徴および使用目的を記録した公式文書である。
本定義書の創作的な文章表現その他の著作物に該当する部分については、著作権法による保護の対象となり得る。
一方、本定義書は、一般的な音楽技法、楽器、音楽理論、音楽ジャンル、音響表現、思想または着想そのものについて、独占的な権利を主張するものではない。
商標としての名称の使用、文章の転載、作品の著作権、その他の知的財産に関する事項については、それぞれ適用される法令および権利関係に従う。

終章｜進化し続ける音楽

生命は、無数の存在が関わり合うことで進化を続けてきた。
そこには、ひとつの形も、ひとつの答えもない。
音楽もまた、同じである。

旋律が生まれ、異なる響きと出会い、時に衝突し、時に調和しながら、それまで存在しなかった表現へと姿を変えていく。
予測できない展開には、未知への期待がある。
静寂には、まだ鳴らされていない音の可能性がある。
そして、美しい旋律には、時代や文化を越えて心に残る力がある。
音楽に終着点を定める必要はない。
新しい音が生まれるたびに、音楽の可能性はさらに広がっていく。
命の進化は音楽を進化させる。
生命に境界がないように、音楽にも境界はない。
LIFONIC™は、その思想を音として表現し続ける。

制定・管理情報

正式名称： LIFONIC™
読み方： ライフォニック
名称の由来： LIFE × SONIC
創案者： SAKA SHIGEHARU（坂茂治）
創案日： 2026年10月9日
初版制定日： 2026年10月26日
改訂日： 2026年10月31日
文書版数： Version 1.1
発信： HIRYU ENTERTAINMENT
© 2026 SAKA SHIGEHARU. All Rights Reserved.
（著作権により保護される権利を留保）
LIFONIC™ Official Music Genre Definition
（LIFONIC™ 音楽ジャンル正式定義書）